平成１７年度学術創成研究費中間評価結果

研究課題名	フェロモン系を介する視床下部・辺縁系機能の制御	研究代表者名	森　裕司

1　研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

ア．高い
イ．やや高い
(ウ)．やや低い
エ．低い

コメント：研究テーマは重要であるが、目的の絞込みや方法論の再考が必要である。

2　研究の進捗状況について

（1）当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

ア．予定以上に進展している
イ．概ね予定どおり進展している
(ウ)．やや遅れている
エ．遅れている

コメント：目的のうち、視床下部・辺縁系機能の解明はある程度進んでいるが、フェロモンの単離に関しては現状の方法論では困難に思える。

（2）今後の研究推進上、問題となる点はないか

ア．研究経費
イ．設　　備
(ウ)．組　　織
エ．そ の 他

コメント：神経回路の解析の専門家の参加などが求められる。

3　これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

ア．期待以上の成果をあげている
イ．概ね期待された成果をあげている
ウ．期待された成果をあげつつある
(エ)．期待された成果はあがっていない

コメント：特にフェロモンの単離などスタート時点から進んでいない。

4　研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

㋐．有機的に連携が保たれている
イ．あまり有機的に連携が保たれていない
ウ．その他

コメント：バランスは概ねとれている。

5　研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア．効率的・効果的に使用されている
㋑．あまり効率的・効果的に使用されていない
ウ．その他

コメント：現時点での成果からは効率的とは言えないが、目的の絞込みや方法論の再考によって、より有効に使用されることが求められる。

［研究課題の総合的な評価］

区分	評価基準	ﾁｪｯｸ欄
A＋	研究の更なる発展が期待でき、より一層の推進を期待する	
A	順調に研究成果を上げつつあり、現行のまま推進すればよい	
B	概ね順調に研究が進んでいるが、今後一層の努力が必要である	○
C	現状において研究成果が期待できず、研究経費の減額又は研究の中止が適当である	

［総合的な評価についてのコメント］

コメント：総合的に見て本プロジェクトはある程度成果を挙げつつあるが、重要なテーマでもあるフェロモンの単離について現状の方法論では、達成は困難と思われ、方法論の再考など、今後一層の努力が必要である。